

健康のこと・からだのこと

今すぐ知ってほしい!!

いつまでも健康で元気に暮らすためには、病気のリスクや生活習慣に関する正しい情報を知り、よりよい生活習慣の実践と検診を適切に受診することが大切です。「そのうち」ではなく「今から」健康づくりを始めましょう。



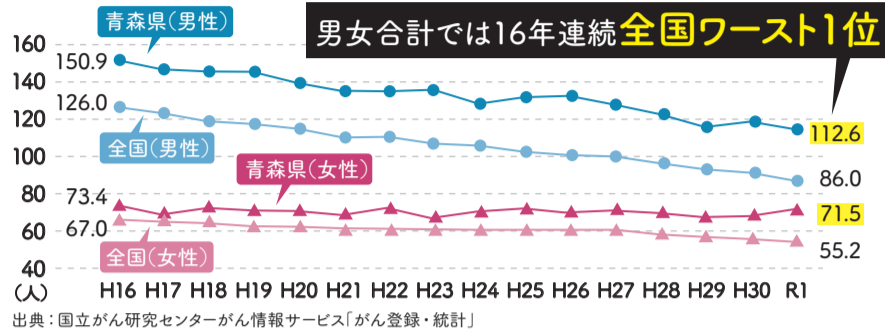
検診を受けて
早期発見に
つなげよう!



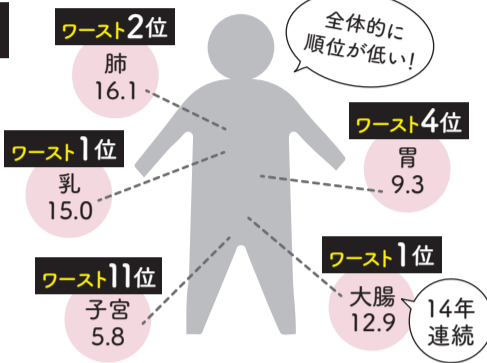
がんについて知ってほしいこと

1 青森県は全国で最もがん死亡率が高い!?

がん(全部位)の75歳未満年齢調整死亡率の全国と青森県の比較(人口10万対)



がん種別年齢調整死亡率(令和元年)



がん検診で早期発見・早期治療につなげよう

青森県のがん(全部位)の75歳未満年齢調整死亡率は、16年連続で全国ワースト1位。非常に残念なことに、青森県はがんで亡くなる人がとても多い県となっています。特に女性の死亡率が悪化しており、全国平均との差も広がっています。

肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんは、検診を受けることで早期発見・早期治療につながり、生存率が高まるのが科学的に証明されています。ポイントは、検診を「対象となる年齢から」、「定期的に」受けることです。がん検診などの受診は、不要不急の外出にはあたりません。がん検診について正しい情報を知り、健康を守りましょう。



2 科学的根拠に基づくがん検診を正しく受けよう

がん検診を受けるときに注意したいのは、科学的な根拠によって、がん死亡率の減少が確認され品質が保証されたがん検診を受けることです。また、「精密検査が必要」と判断された場合には、必ず早めに医療機関を受診し、精密検査を受けましょう。

科学的根拠に基づくがん検診

検診の種類	検診方法	対象年齢(性別)	検診間隔
肺がん検診	胸部エックス線検査と かたん 喀痰細胞診(喫煙者のみ)の併用	40歳以上(男女)	毎年
胃がん検診	胃エックス線検査または胃内視鏡検査	50歳以上(男女)※1	2年に1回※2
大腸がん検診	便潜血検査	40歳以上(男女)	毎年
乳がん検診	マンモグラフィー検診 (乳房のエックス線検査)※3	40歳以上(女)	2年に1回
けい 子宮頸がん検診	けいぶ 頸部細胞診	20歳以上(女)	2年に1回

3 小児・AYA世代*のがん患者等の『妊孕性温存療法』に注目!

*AYA世代とは、Adolescent & Young Adult(思春期・若年成人)のことで、主に思春期(15歳)~30歳代までの世代を指します。

がんなどの病気に見舞われた時、病気の治療が最優先ですが、患者さんが将来子どもを授かることができるよう、また希望を持って治療に臨むことができるように、「妊孕性温存療法」という選択肢があります。



弘前大学
医学部附属病院
産科婦人科 医師
みふら りえ
福原 理恵先生

「妊孕性」とは「妊娠する力」のことで、男女ともにその力を温存する療法です。不妊治療の技術を応用して、男性の場合は精子を、女性の場合は年齢や状況に応じて卵子が卵巣組織、または受精卵を凍結して保存します。がんに限らず、さまざまな病気の治療には「妊娠する力」に影響を及ぼすものもあり、治療を始める前や治療の間などに行います。長期間の保存ができるので、病気の治療が

Q 妊孕性温存療法って?

A 「妊孕性」とは「妊娠する力」のことで、男女ともにその力を温存する療法です。不妊治療の技術を応用して、男性の場合は精子を、女性の場合は年齢や状況に応じて卵子が卵巣組織、または受精卵を凍結して保存します。がんに限らず、さまざまな病気の治療には「妊娠する力」に影響を及ぼすものもあり、治療を始める前や治療の間などに行います。長期間の保存ができるので、病気の治療が

詳しくおしえて! 妊孕性温存療法

県の助成制度があります!
青森県には妊孕性温存療法に関する助成制度があります。対象や申請方法などの詳細は県庁ホームページをご覧ください。

詳しくは県庁HP
妊孕性温存療法 検索

Q がんになったら必ず受けた方がいい? A がんになっても、子どもを授かることを諦めなければならぬというわけではなく、選り好みでいいと思えます。実際に受けるかは本人の判断ですが、知っていても、知らなくてできなかったのでは、がんを克服した後の人生に対する向き合い方も変わってきます。治療を受けることを前提としたカウンセリングではなく、まずは説明を聞いてみるつもりで受診していただきたいと思います。

Q がんになったら必ず受けた方がいい? A がんになっても、子どもを授かることを諦めなければならぬというわけではなく、選り好みでいいと思えます。実際に受けるかは本人の判断ですが、知っていても、知らなくてできなかったのでは、がんを克服した後の人生に対する向き合い方も変わってきます。治療を受けることを前提としたカウンセリングではなく、まずは説明を聞いてみるつもりで受診していただきたいと思います。